

## 札幌駅周辺の 身障者トイレの実態

北海道大学医師会  
吉田学園専門学校北海道リハビリテーション大学校

中村仁志夫

平成19年（2007年）3月に北大の定年を迎え、4月から某病院に勤務しながら週一で吉田学園の病理学と神経学の授業に通っていた私に、平成25年（2013年）2月、突如家族介護の役割が発生した。当時67歳の妻が右脳梗塞で倒れたのである。

妻は脳神経外科病院に半年入院の後、3ヵ月はサービス付高齢者住宅で過ごしたが、自宅のトイレ・浴室を整備後に私は病院を辞し、同じく勤めを辞めた長女と夜は民間介護会社のヘルパーさんの助けを借りて、2014年1月から星置一札幌間をJRで、自宅～駅と札幌駅～リハビリおよび医療施設へは介護タクシーで通う、自宅介護を基本とする生活が始まった。

午前を週3回リハビリ通所または受診で費やし、昼食を札幌駅周辺で取り、デパ地下で買い物をしてから夕方までに帰宅するという生活を続けた。その間に3～4回は身障者用トイレに立ち寄る必要があり、帰りのJRの時刻をその都度介護タクシーと確認を取り合って決めた。介護タクシーも手稲星置の人をキーマンにチームを組み、毎月利用時刻予定表をJRに予め提出して、乗降する際の駅員の補助作業をお願いしていた。

自宅では自主リハビリのために廊下の特注手すりを活用し、テレビ視聴も時間を限って行った。また、車いすで近所のお祭りや買い物などにも出掛けた。

外出時は気が張り、6時間に3～4回だが、自宅に1日中いる時は1日18～20回のトイレ介助を要した。妻がベッド上での排泄を嫌ったからである。昼夜なく車いすに移らせる生活を3年以上継続することは容易でなく、長女と私は妻の人間の尊厳の維持のために戦った。

2015年8月からはリハビリに加えて映画鑑賞、道立近代美術館での美術鑑賞、劇団四季の観劇が生活に加わった。健康なときに実現できなかった夫婦同伴の楽しみをできる範囲内で実現することに挑戦したのである。

赤木春恵主演の話題作『ペコロスの母に会いに行く』を南3西6の“シアターキノ”で観たことをきっかけに、札幌シネマフロンティアで2年半の間にアニメ映画の『リトルプリンス星の王子さまと私』『君の名は。』をはじめ、邦画の『家族はつらいよ』、洋画の『ハドソン川の奇跡』、名画の『七人の侍』など、計33本を観た。美術館は5回利用し、『平山郁夫展』『横山大観展』などを楽しんだ。そして劇

団四季の『キャッツ』と『ウィキッド』では生のミュージカルの醍醐味を堪能した。

こうした経験は妻の左脳が助かって、失語症を免れたことでもたらされた。しかし右脳に優位性がある立体感覚関連では、起立保持の調節障害の改善がかなり妨げられていた。ただし左半側空間失認は限定的で、幸い映画鑑賞には影響が少なかった。

そこで身障者トイレの話になるが、そもそも身障者トイレの仕様には右麻痺用と左麻痺用があり、便座に座して縦の支持棒が左側に来るのが右麻痺用で、右手側に縦の支持棒が来るのが左麻痺用である。一般に支持棒は廊下に沿って横に設置されていることが多いが、身障者が立ったり座ったりするときに頼りになるのは縦の支持棒で、横の支持棒は障害者本人によっては身長との釣り合いもあって、必ずしも使い勝手がよいとは限らないのである。

私たちにとって最も使用頻度が高かったのは、札幌駅1階構内南側のトイレであった。そこは左麻痺用で比較的良好に整備され、最も使い勝手がよかった。ただ、多目的トイレのため、女子高生の着替えにも使われ、健康そうな若者が喫煙所代わりに使っていたこともある。

構内の反対側にある北側のトイレは南側よりも新しかったが右麻痺用で、使い心地が悪かった。

昼食に立ち寄ることが多かったステラプレイス6階食堂街西側のトイレも左麻痺用だったが、途中で右麻痺用に改修されてしまった。大丸デパートのトイレは偶数階のみに設置されているが左麻痺用は地下1階のみにしかなく、あとはすべて右麻痺用で、切羽詰まった時以外は使用を避けた。ESTAビル10階食堂街の端にあるトイレは幸い左麻痺用であった。ESTAからJR方面に戻る地下街の角にある身障者トイレも左麻痺用であったが、床面はいつも汚れており、やむを得ない時以外は使用を避けていた。

結局のところ至近距離に左麻痺用と右麻痺用が並んで設置されている身障者用トイレは札幌シネマフロンティアと道立近代美術館および地下鉄中島公園駅の3ヵ所にしか見られなかったのは問題である。

JRの列車内に時に見られる身障者用トイレは右麻痺用限定（左麻痺の存在を知らない？）であり、空間に余裕もなく、使用する気にはならなかった。

妻は「家に戻ってトイレに入るとホッとすると」言っていた。実は妻の膝下が短いため、自宅では常に滑り止め付きの高さ5cmの手製の足台を用いたが、踏ん張りが利く補助台付きのトイレは外ではただの1ヵ所もなく、最近提示された東京パラリンピックの計画でも便座の高さは43cmと固定的で、利用者の下肢長に配慮された対策がないのは言語道断であると思う。

平成29年（2017年）1月、急変した妻は夜間救急車で入院し、4ヵ月の入院治療後、札幌の花の季節の訪れとともに71歳の生涯を閉じた。 合掌